

# 複数企業の共同運行バス導入実験時におけるモビリティ・マネジメント

国土交通省関東運輸局 島田 昌司  
相模原市都市部 石川 敏美  
八千代エンジニアリング(株) 菅原 宏明  
【発表】八千代エンジニアリング(株) 中村 悟

発表者連絡先：〒161-8575 東京都新宿区西落合2-18-12 Tel：03-5906-0564 E-mail：st-nakamura@yachiyo-eng.co.jp URL：http://www.yachiyo-eng.co.jp/

## MM施策概要

- 平成18年1月に神奈川県相模原市において実施
- 複数企業の従業員と相模原市職員が共同利用可能なバスの導入実験時に、企業バスのプロモーションとしてMMを実施
- 実験参加企業31社の全従業員4,340人を対象
- 実験バス導入前にワンショットTFPを実施
- 相模原市職員に対し、組織構成を利用し所属長からの行動変容要請を実施

## バス導入実験背景と目的

### 通勤交通現況

- 相模原市田名地区企業：
  - ・大小合わせ31社、総従業員数が約4,300人の工場地域
  - ・そのうち概ね6割の約2,500人がマイカー通勤
  - 周辺道路で通勤時間帯に慢性的な混雑が発生
- 相模原市役所：
  - ・約800人がマイカー通勤
  - ・特に混雑の激しい相模原愛川線を79人が利用

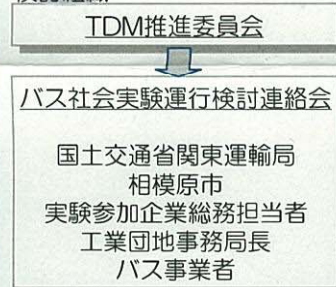


### 目的

- マイカー通勤の削減
- 共同通勤バス運行（代替手段の確保）による通勤利便性の向上
- MMの実施による実験バスの周知・利用促進
- 市職員に対する相乗り等の混雑緩和策の協力要請

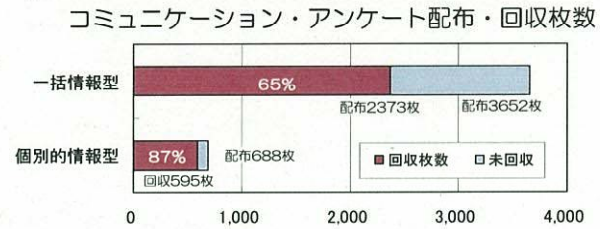


### 検討組織



## 実施の成果

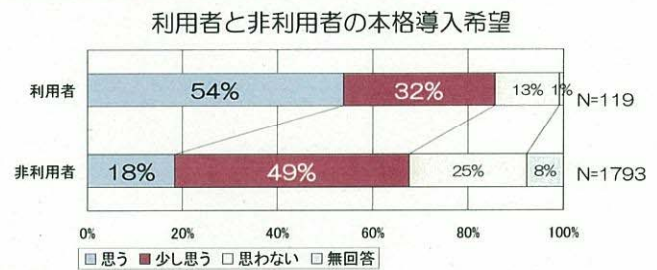
### ●地域一体の取り組みにより多くの通勤者が参加



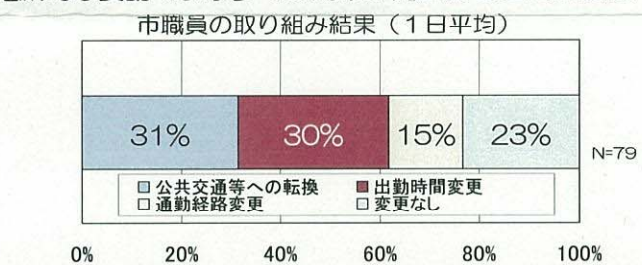
### ●マイカー通勤減少効果を確認

主体	自動車通勤者数	利用する可能性のあった方 (a)	共同通勤バスに1回以上転換 (b)	比率 (a/b)
A社	1000	573	32	6%
B社	820	347	9	3%
C社	170	66	3	5%
D工業団地	-	19	0	0%
E工業団地	316	135	4	3%
F工業団地	148	33	5	15%
合計	2454	1173	53	5%

### ●共同通勤バスの本格導入に対する高い要望

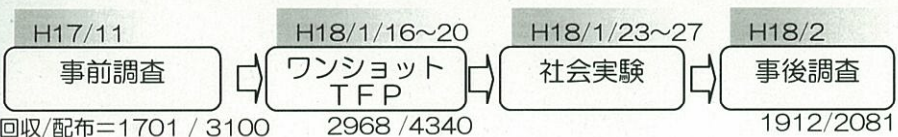


### ●組織内の権威的な要請でより多くの効果が見込めることを実証



## MMの実施内容

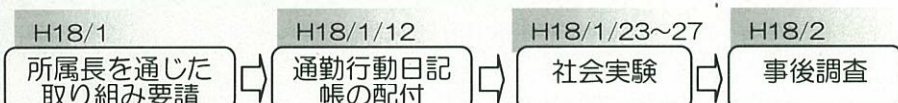
### ↓従業員4,340人への共同通勤バス利用の働きかけ



### 特徴

- 大規模な実施
  - ・大小合わせ31社、総従業員数4,340人全てに対して実施
- 従業員の自主性に委ねる
  - ・実験期間中だけでなく持続可能な取り組みを目指して、会社からの強制ではなく各従業員個人の自発的な行動変容に委ねた
- コミュニケーションアンケートの工夫
  - ・動機付け情報...共同通勤バスの「必要性」の確認のため
  - ・個別の情報...事前アンケートを基に、個人の居住地に合わせた運行情報を提供
  - ・行動プランの作成...共同通勤バスを利用した通勤方法を記入

### ↓市職員79人への混雑緩和策への働きかけ



### 特徴

- 所属長を通じた協力要請・記名式調査票
  - ・基本的には職員に自主性に委ねたが、所属長を通じた要請と記名式調査票により心理的影響を高めた

## さらなる取り組みで期待される効果

- ↓MMによる有効な動機付けにより、さらに多くの公共交通利用が見込める
- 従業員個々に対する動機付けは強いものではなかったにも関わらず、その中でもマイカー通勤減少効果が確認できた
- MMの実施方法の工夫により、さらに多くのマイカー通勤減少が見込めるものと考えられる

### ↓企業での組織ぐるみの取り組みが、本格的な実現可能性を高める

- 市役所での組織ぐるみの取り組みでは大きなマイカー通勤減少効果が実証された
- 企業においても、トップを巻き込んだ組織ぐるみの取り組みが実践できれば、効果発現がより大きなものになると考えられる

## 今後の展開可能性

- 実験参加企業のうち、既に企業バスを運行する大規模事業所では、本格的に、「企業バスの増車（システムの導入）」と「MM」をパッケージで実施する、マイカー通勤対策を計画中
- その他の企業についても、通勤交通等に対するきめ細やかなニーズを調査し、共同運行バス等の勉強会を設置し、協議を進める予定

### 謝辞

本施策を進めるにあたり、東京海洋大学高橋洋二教授には社会実験実施全般について、東京工業大学藤井聡教授および筑波大学谷口綾子講師にはモビリティ・マネジメントについて、それぞれ多大なご指導を頂きました。また、実験参加企業の担当者各位には、大きなご助力を頂きました。ここに記して感謝の意を表します。